

検証・評価シート

西区計画 -平成27年度の取り組み状況-

将来像	美しいまち西区 新しい田園都市をめざして 西区の特色である自然に恵まれた緑豊かなまちなみを保ち、農村地域、ニュータウン、産業団地がそれぞれの魅力を活かし、相互の交流と連携を通じて、区民が安心して、健康に、共に暮らせるまちをめざす。
	1 安全で安心なまちづくり A評価： 顕著な成果
趣旨	「安全・安心なまちづくり」を進めるため、防災や防犯力を向上させる取り組みを促進し、緊急時に迅速な対応を行うためのネットワークづくりを行います。 発生や流行の予測が困難な新型インフルエンザなど、新しい感染症への対策として、平常時における準備や発生時の危機管理体制の整備を進めます。
平成27年度の目標達成状況	<p>①地域の自主防災力の向上(B評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 区内30団体の防災福祉コミュニティにおいて、防災訓練67回(3月末見込 77回)、リーダー研修24回(3月末見込 30回)、会議81回(3月末見込 90回)が実施された。積極的な防災活動の取り組みにより、区内各地域で防災知識の習得や防災意識の向上が図られた。 FAST(民間救急講習団体)や西消防署による市民救命士講習会が実施されており、約3,400人(3月末見込 約3,500人)が受講した。AEDの使用方法や応急手当が的確に行えるよう、また市民救命士が1世帯に1人いることを理想とした取り組みが積極的に行われており、着実に区内で講習修了者が増加している。 小中学校の生徒が参加する防災訓練を47回(3月末見込 55回)実施し、5,713人(3月末見込 約5,800人)が参加した。学校と地域が連携した取り組みにより、子どもたちへの防災教育が行われた。 防災学習の推進として、西区聴力言語障害者福祉協会による「防災学習会」が開催された。学習会では、協会による防災活動への取り組み報告や聴覚障がい者と健常者が防災ゲームなどを通じて、意見交換を行い、相互に理解を深めることができた。 ジュニアチームの子供たちの防災意識の向上や活動支援として、市民救命士講習会等で使用するAED等の防災関連資材の貸出を8団体へ行った。 <p>① 災害に強いまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政内部での情報伝達機能の強化を目的として、河川の氾濫による被害等を想定した情報伝達訓練を実施した。また、「災害時一人も見逃さない運動」の実現に向けた取り組みの一環として、聴覚に障がいがある方のもっともポピュラーな情報伝達ツールであるFAXを使用した情報伝達訓練を行った。訓練では、聴力言語障害者福祉協会の情報伝達網の整備を行い、災害情報がわかるように聴力言語障害者福祉協会の意見を取り入れ、人と防災未来センターと連携して作成した新たな災害情報の伝達様式で実施した。 西区総合防災訓練については、要援護者への情報伝達訓練を主としたものを実施したが、区が主体となった、より総合的な訓練を実施することが、次年度については課題となっている。 <p>②情報伝達機能などの強化(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種防災訓練が地域が主体となって行われている。また地域の防災訓練へ区役所が参加し、活動支援等を行い、地域と行政との連携が進んだ。 西区安全会議が開催され、今後起こり得る災害への備えについて考える機会として、講師による講演会や消防署長による体験談、地域の活動報告を行った。 <p>③災害時一人も見逃さない運動《再掲実践プラン4-②-②》(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 民生委員児童委員を中心に、防災福祉コミュニティやふれあいのまちづくり協議会だけでなく、自治会も連携した取り組みが広がり始めており、要援護者の情報を集約し、災害時にも活用できる情報システムづくりを行っている。 また、各地域で要援護者マップや名簿の作成を進めるとともに、災害時だけでなく平常時も活用できるよう取り組みを行っている。 まちづくり指標である「災害時一人も見逃さない運動の取り組み地区数」は、目標値13地区に対し14地区となり、5か年計画の目標値を達成した。
② 健康危機管理体制の強化	<p>①普及・啓発活動の推進(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 西区医師会、歯科医師会及び三師会との業務連絡会を開催し、行政と情報を共有し、相互に連携して、健康危機への対応や啓発活動等を推進した。 新型インフルエンザ等の対策として、104施設及び機関へインフルエンザ等感染症の流行状況や感染拡大防止対策などの最新情報を3回(3月末見込 4回)配信し、感染防止の対策を図った。 感染症予防の普及啓発を204箇所(3月末見込 213箇所)で実施した。 まちづくり指標である「普及啓発の実施箇所数」は、目標値200箇所に対し、204箇所(3月末見込 213箇所)実施したことで、5か年計画の目標値を達成した。 <p>②地域連携ネットワークの拡充強化(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> インフルエンザ等感染症健康教育を51回(3月末見込 70回)、施設等への指導を25施設(3月末見込 33施設)、研修会を1回実施する等、各地域関係機関とのネットワークを拡充することで感染症発生の早期探知及び拡大の抑制に繋がった。また、17医療機関で立入検査を行うことで施設とのネットワークの拡充にも繋がっている。

平成27年度の目標達成状況	<p>③ 犯罪のない安全で安心なまちづくり</p> <p>①地域の自主防犯力の向上(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「KOBE西 安全・あんしんネットワーク」の構築として、メール配信システム運用による防犯、防災情報を、西警察署や西消防署など行政機関が連携して25件配信した。メール配信システムへの登録の啓発として小学校入学児童全員及び区内各大学新生へチラシを配布するなどして今年度の新規登録者数が728人となり、計7,520人の登録となった。また、「安全・あんしんパトロールステッカー」貼付車両の協力車両台が97台増加し、合計1,029台となった。 ・事業所と安全安心に関する連携を強化するため、安全安心まちづくり協定(覚書)締結に向けた取り組みを進めており、新たに神戸市西区コンビニ防犯対策協議会に属する店舗が13店舗増加した。 <p>まちづくり指標である「西区安全安心まちづくり協定の締結数」は、目標値の100件に対し、310件締結し、5か年計画の目標値を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私設街灯を管理している110団体に対して街灯助成を行い、今年度は新たに52基の街灯新設を行った。交通安全や犯罪防止を図るため、門灯点灯運動を含めた「光のまち神戸」を推進していく。 ・「こども110番 青少年を守る店・守る家」については、協力者マップを毎年更新し、集団下校等と連携した地域見守り活動やマップを用いて子ども達が協力者の位置を確認するウォークラリー等を実施した。また、広報紙やホームページでの広報を含め、登録者との意見交換や児童から協力者へ手紙を送るなどの交流を通じて、青少年を守る店・守る家ステッカーの周知、再確認する機会を持つなど取り組みの強化を図った。 ・主に子供の見守り活動を行う38団体に対し、防犯活動用の資材を配布した。 ・青色回転灯装着車による防犯パトロールが地域や事業所の8団体18車両において、継続的に実施されている。また、今年度は、「西区一斉青色防犯パトロール」を4回実施した。(3月末見込 5回) ・西区全体の安全安心活動のレベルアップを図るため、安全で安心なまちづくり講演会を開催した。講演会へ多くの方が参加できるように参加者の募集やチラシの配布等の活動を行った。
交通安全施策の推進	<p>④ ①交通安全の意識啓発(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国交通安全運動等に合わせ区民や西警察署、神戸西交通安全協会等と連携し、交通安全意識向上、啓発を4回行った。また、交通安全運動の推進と交通事故防止のため、区内全小学校の新入学児童にランドセルカバーを配布した。 <p>②通学路の交通安全(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの通学時の交通事故を防止するため、ふれまち協、青少協、老人会などの地域団体による見守り活動が、区内各地域で取り組まれている。 ・小学生や保護者と西建設事務所が、通学路の危険箇所を点検する「交通安全総点検」を高津橋小学校で実施した。
平成27年度の評価・今後の課題	<p>災害に強いまちづくりを目指した地道な地域活動が区内全域で着実に進んでいる。また、FAST(民間救急講習団体)による市民救命士講習会が各地で開催されており、市民自らの力で地域力の向上が図られている。災害時一人も見逃さない運動では、各地域で要援護者マップや名簿の作成が行われ、要援護者が参加する避難訓練も実施されており、各自治会においてもその取り組みが広がりはじめている。</p> <p>また今年も講師による講演会や消防署長による体験談だけでなく、地域の自主防災組織による日頃の様々な活動についての報告が行われた。</p> <p>健康危機管理体制の強化については、今後必要とされる健康危機にかかる情報を提供しながら、様々な形で区民、病院、各種団体、施設に対して啓発活動が積極的に行われている。</p> <p>西区安全安心まちづくり協定においては、覚書を締結した事業所数が今年度目標値を上回っており、着実に取り組みが進められている。緊急時のメール配信システムについては、新入学児童の保護者に対して登録案内を配布するとともに区内各地域で開催される防災学習会などにおいても案内することにより、登録者数が年々増加している。</p> <p>交通安全対策として年4回展開する「全国交通安全運動」や「交通事故防止運動」にあわせて各種交通安全キャンペーンを実施している。</p> <p>重点事業の評価がA評価7、B評価1であり、全体評価は「顕著な成果」としている。</p> <p>各地域において防災訓練など様々な取り組みが積極的に行われているが、その活動内容はバラツキがあるため、更なる防災力の向上を図る観点から、各地域の状況を確認しながら取り組みを推進するとともに、地域と行政が連携した総合防災訓練を実施していく必要がある。</p> <p>「災害時一人も見逃さない運動」では、各地域で取り組みが進められているが、今後も取り組み地区拡大に向けた啓発や支援を行っていく。</p> <p>安全安心まちづくり協定締結に向けた取り組みについて、協定締結数がまちづくり指標の目標値を達成しているが、今後は更にその趣旨を広げていくため区内の企業や各種団体と協定締結に向けた取り組みを引き続き進めていく。</p>

2 次世代育成支援の推進		A評価:	顕著な成果
趣旨	地域社会の希薄化・少子化や核家族化に起因する子育ての不安を解消し、安心して子どもを産み育てることができるような支援が求められています。子どもや若い世代が多い西区では、子育てをする保護者や乳幼児・児童・青少年を社会全体で支えるまちをめざします。		
平成27年度の目標達成状況	①子育て家庭への支援	<p>①おやこの広場(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 民生委員児童委員が中心となって、地域のボランティアなどとともに、乳幼児を持つ保護者を対象に、育児の悩みや不安を解消し、交流の機会を得る場を提供した。児童館や地域福祉センターなどの身近なところで行う子育て情報の提供・交換などの活動の支援として、おやこの広場の活動・運営支援に取り組み、30箇所と運営関係者対象の交流会1回を開催し、事業目標を達成した。 子育てアドバイザー派遣を行い、地域親子の広場や自主サークルと区の保健師をつなぎ、タイムリーなアドバイスをすることで、効果的な子育て支援を行った。 地域の子育て支援として、核家族等で孤立しがちな親子を対象に農村地域での自然体験を通じて、交流を図った。 岩岡×美賀多台地区:H27.5.12 45人 伊川谷×西神東地区:H27.10.30 53人 今後も子育てをする保護者について、地域と行政の連携によりさらに支援を進める。 <p>②新生児訪問(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健師や助産師などが、生後4か月までの乳児を持つ保護者の家庭を訪問し、育児、産後の生活、産後うつなどについて適切な助言を行い、不安を解消するため新生児訪問を行った。27年度は1,708件について行った。 <p>③すくすく訪問(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 民生委員児童委員、主任児童委員が中心となって、乳幼児をもつ保護者への家庭訪問を、対象世帯すべてに拡げ、子育てに関する相談を通して不安や悩みを解消するすくすく訪問活動支援を19地区で実施し、訪問希望者289人、情報希望者567人に対して支援を行った。(3月末見込 訪問希望者320人 情報希望者625人) 取り組み地区では、活発に活動が行われその内容は充実しているが、他人の家庭への介入を望まない世帯が増加傾向にあるなど、訪問希望者が増えていない。H25年度から、申込はがき回収方法の変更(健診時持参を追加)や情報提供のみの希望受付を実施し、増加につながっている。 <p>④発達障がい児支援(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 乳幼児健診の機会を活用するとともに、発達障がい児が通う学校・園との連携を密にすることにより、発達障がい児の早期発見に努め、発達障害専門相談、言葉の相談等のH27年度実績は1,490人(参考H25:1,307人 H26:1,401人)となり増加している。 児童委員などが地域の見守りを行い、保護者などの相談に応じた。また、発達障がい児の支援に取り組むNPOや地域団体と協働して、地域における「子どもと親の応援隊」事業の継続的な取り組みを進め、45組55回と事業目標を上回る支援を行った。 <p>⑤学童との交流支援(A評価)</p> <p>地域と小学校児童等の交流のための取り組みが進んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3校交流田 3回 太山寺小学校、東町小学校、小寺小学校児童と保護者、地区老人クラブ 約300人参加による農業体験 田植え:H27.6.2 307人 稲刈り:H27.10.14 312人 月が丘小学校手話教室 3.4年生約60人が参加、ふれあいのまちづくり協議会とPTCAが開催した。 *PTCA=家庭、学校、こども、地域 糞台小学校昔話遊びを楽しむ学習会 1年生約60人 もちつき体験 2年生約70人 昔の暮らしを知る学習会 3年生約90人 それぞれ、ふれあいのまちづくり協議会ボランティア20人が開催した。 各老人クラブによる小学校での昔遊び等行事開催 35クラブ 	
	②要保護児童対策の推進	<p>①乳幼児相談(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健師などが母子健康手帳交付時等窓口業務をはじめ家庭訪問、各種教室、親子の広場事業などの機会に子育てに関する情報提供や個別の相談に応じるなど、20,000件(H27年度事業目標値)を超える乳幼児相談に取り組んだ。 まちづくり指標である「乳幼児相談への理解度」について、西区の住民を対象の、インターネットを活用したアンケートを実施した結果、目標値50%に対し、52.7%の結果となり、5か年計画の目標値を達成した。 <p>②子育てセミナー(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育てに悩みや不安を持つ保護者を対象に、「しかり方・ほめ方」など具体的な方法を理解することで、子育ての喜びを実感できるよう支援するため、子育てセミナー10回(セミナー8回・OB会2回)を開催した。 効果的なほめ方、子どもの発達と親の役割りなどを学ぶなど参加者から好評であった。 	

<p>平成27年度の目標達成状況</p>	<p>② 要保護児童対策の推進</p> <p>③ 命の感動体験(B評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代の親となる小学校高学年の子どもたちが、乳幼児やその保護者とふれあう「命の感動体験事業」を拡充し、命の尊さや自分自身の大切さに気づき子育てに肯定的なイメージを持てるよう支援した。 ・16小学校での実施となったが、実施校においては事業内容の充実が図られ、活発な取り組みが進められた。今年度は小学生1,295人、乳幼児705人、親583人の2,583人が参加した。 ・事業後に寄せられる児童の感想文によると、親子のきずなや命の大切さを学び、将来親になったときの不安を軽減することにつながる体験ができた。 ・まちづくり指標の「命の感動体験実施校数」について、カリキュラム対応など学校との調整を行ったが、目標値20校に対し、16校にとどまり、5か年計画の目標値を達成できなかった。今後、学校、地域との連携を深め、実施しやすい体制を検討していく。 <p>④ 児童虐待の防止(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子健康手帳交付時や乳幼児健康診査の機会をいかし、手帳交付時の保健師による全件面接の継続と新生児訪問の訪問率83%を94%にアップした。面接で母子双方の状態を把握することが可能であり、乳幼児健診の未受診を減らすことで、ハイリスクの早期発見と予防に努めた。 ・児童虐待通告者に対して迅速な対応をするため、こども家庭センターと共に、民生委員、学校、警察など関係機関との連携を強化した。 ・乳幼児健診等でフォローが必要と判断した母親に対して、心理士による個別カウンセリングを実施した。34組(H26 38組)を対象にカウンセリングを行った。 ・児童手当の申請時に、保健師が新生児訪問への情報提供の同意を得て、今後のフォローのために連絡先を確認する体制を確保した。 <p>また、CAP事業に代えて、命の感動体験事業の実施により、命の尊さや自分自身の大切さに気付く機会を持てるよう支援した。</p>
<p>青少年の健全育成</p>	<p>① ジュニアチームの育成《再掲実践プラン1ー①ー①》(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敬老会、給食会のほか、共同募金、福祉フェアなどの福祉活動に積極的に参加した。 ・西神ニュータウン6地区と神出・井吹東(計8団体)に講習会等で使用するAED等の防災関連資材を貸出した。 ・地域の防災福祉コミュニティの防災訓練において、初期消火活動や避難所開設訓練を行った(西神6地区・学園・井吹台・長坂 9地区)。 <p>② 青少年活動への支援(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こども110番 青少年を守る店・守る家」については、協力者マップを毎年更新し、集団下校等と連携した地域見守り活動やマップを用いて子ども達が協力者の位置を確認するウォークラリー等を実施した。また、広報紙やホームページでの広報を含め、登録者との意見交換や児童から協力者へ手紙を送るなどの交流を通じて、青少年を守る店・守る家ステッカーの周知、再確認する機会を持つなど取り組みの強化を図った。今後とも、警察・学校等との連携を緊密にして、安全安心なまちづくりを推進する。 登録件数:5,186件 ・ユースステーション西として、西区民センターの1・2階を活用し、青少年のフリースペースや学習コーナーを設置した。音楽室などの活用 利用者 約24,000人(3月末見込) ・西区青少年フェスティバルでは、善行のあった青少年を讃えることによって他の青少年の善行意識を高揚するとともに、青少年の文化活動の発表の場づくりとして、青少年グループによる吹奏楽演奏、コーラス、ダンスなどのステージを行った。また、今年度より「社会を明るくする運動作文コンテスト表彰式」も同時開催した。 H28.2.7 西区民センター 約500人参加(一般含む) ・携帯電話やインターネット等の普及により、出会い系サイトや違法ドラッグなどに関係した犯罪が急増し社会問題化している。社明大会、街頭啓発活動、西区青少年フェスティバルなど機会あるごとに、これらの危険性を広く発信・啓発するとともに、西区青少協及び支部において専門家を招いての研修会を開催した(支部合同や各支部で随時開催)。
<p>平成27年度の評価・今後の課題</p>	<p>民生委員児童委員が中心となり地域ボランティアと共に子育ての不安を解消し、交流の機会を得る場としておやこの広場の活動を積極的に支援し事業目標を達成した。</p> <p>すくすく訪問活動においては、訪問を希望しない家庭へも地域の情報提供を行い、子育て家庭の孤立防止に努めた。また、乳幼児健診の未受診者について追跡調査を実施し、児童虐待や発達障がいなどが疑われるケースの早期発見と予防につなげている。</p> <p>また、発達障害児専門相談、言葉の相談等の実施は年々その回数を増やし、発達障害児の早期発見に努めている。併せて児童委員の地域見守りや相談、NPOや地域団体と協働して「子どもと親の応援隊」事業を行った。</p> <p>児童虐待防止の取り組みでは、母子手帳交付時や乳幼児健康診査の機会を活かし、ハイリスクの早期発見と予防のため、保健師による面接や新生児訪問の訪問率をアップした。</p> <p>乳幼児健診等でフォローが必要と判断した母親には、個別カウンセリングを実施するなど予定数を上回る取り組みを行った。また地域と行政の連携によりおやこの広場などの支援事業をより利用しやすいものとなるよう検討が必要である。</p> <p>重点事業の評価がA評価10、B評価1であり、全体評価は「顕著な成果」としている。</p> <p>地域と学校・園との連携強化をどのように進めていくか、学校や子ども達が抱える問題に対して、地域ができる支援を検討する必要がある。西区保護司会、青少年育成協議会などの協力の下、各校での啓発に取り組む。</p> <p>「こども110番 青少年を守る店・守る家」の協力者マップの年次更新を引き続き行うことによってデータの適正な管理に努めるとともに、警察、学校等と連携した駆け込み訓練やウォークラリーなどを実施することで、より実質的に安全・安心なまちづくりを推進する。また、各支部での取り組みを共有することにより、機能強化と西区全体での安全・安心活動のレベルアップを図る。</p> <p>ユースステーション西では施設内の活動にとどまらず、中高生の活動が拠点を通じて活性化するような役割を担うよう事業を充実させていく。</p>

3 中高年者・障がい者の支援の充実		A評価:	顕著な成果
趣旨	<p>超高齢社会においては、健康で生き生きとした生活を送ることがますます重要となります。西区は、市内の他の区に比べると高齢化率は低いものの、人口が多いため多くの高齢者が暮らしています。引き続き高齢者の健康づくりと介護予防事業に取り組みます。</p>		
	① 中高年者の健康づくり 平成27年度の目標達成状況	<p>①ヘルシーウォーキング(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の予防に効果的である継続的なウォーキングを広く啓発する活動を行うとともに、ウォーキンググループを育成し、住民主体の健康づくりを進めた。 地域医療ホールや地域福祉センター等でヘルシーウォーキング登録確認会を17回(3月末見込19回)開催し、470人(3月末見込550人)が参加した。 これまで中高年健康づくり研修会を開催してきたが、子育て中の対象者が参加しにくいという現状から、今年度は教室に託児コーナーを併設し、より参加しやすくなる取り組みを行った。 COPD(慢性閉塞性肺疾患)健康相談・健康教室 9回(3月末見込10回) 226人(3月末見込246人) <p>②ヘルスアップ作戦の支援(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域ヘルスアップ作戦推進員が取り組む健康活動に対し、運動や栄養などの健康メニューを提供し、各地域の状況に応じた健康増進活動を進めた。 井吹台、伊川谷、玉津、神出、押部谷、岩岡、平野の各地区で開催されたウォーキングイベントにおいて実施した健康チェックに572人の参加があった。 流通科学大学との連携による健康づくり講習会に取り組み、地域の健康づくりを推進した。 <p>③食による健康づくり(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康づくりのためには、運動や休養とともに「食」が重要な要素となるため、栄養相談等の助言・指導を行い、「食」を通じた健康づくりを推進した。 成人食育講座を伊川谷地区において1回開催し、27人が参加した。 ヘルシーウォーキングやウォーキングイベント等の開催ごとに管理栄養士による栄養相談コーナーや栄養指導、健康チェックコーナーを設けるなどの取り組みを行った。 まちづくり指標の「生活習慣病予防相談者数」は、目標値1,000人に対し、1,278人となり、5か年計画の目標値を達成した。 健康づくりを進めるためには中年世代からの取り組みが必要であるが、中年世代の参加をどのように促すかが今後の課題である。 <p>④三世交代による健康づくり《再掲実践プラン2-①-⑤》(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域と小学校児童等の交流のための取り組みが進んだ。 	
② 高齢者支援の充実		<p>①高齢者の地域での支援(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 民生委員や福祉団体、地域団体が高齢者に対する相談活動の充実に努めた。また、災害時の高齢者等要援護者支援を目的とした「災害時一人も見逃さない運動」に取り組むなど、隣近所が支え合い助け合うコミュニティづくりに取り組んだ。さらに相談支援体制を強化するため、地域包括支援センターの普及啓発及び地域における連絡会等を継続した。 ※登録者数 ①徘徊の恐れがある方 55名 ②捜索協力者 382名 徘徊認知症高齢者等を地域のチカラで早期発見し、また保護された時の身元確認を容易にする「西区徘徊SOSネット(愛称:みまもん)」を平成27年1月から実施している。 地域ネットワーク会議967回(12月末) (3月末見込1,284回) あんしんすこやかセンター連絡会 10回(3月末見込12回) 各介護サービス事業者連絡会 8回(3月末見込10回) 地域の高齢者情報把握のために地域との連絡会を開催277回(12月末) (3月末見込368回) 認知症啓発リーフレット・ポスターの配布、活用(H23.24年度リーフレット作成、H25年度ポスター作成) 認知症ケアパス(西区版)作成(H28年3月完成予定) <p>②給食会やふれあい喫茶の充実(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の交流を深め孤立を防ぐため民生委員やふれあいのまちづくり協議会が中心となって給食会、ふれあい喫茶を開催し、多数の人が参加・交流した。また、関係者の研修会を開催した。 給食会 331回 28箇所(3月末見込) ふれあい喫茶・サロン 219回 21箇所 ふれあい給食会研修会 H28.3.14 <p>③高齢者虐待の防止(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域で潜在化した高齢者虐待が問題となっている。施設や近隣の見守りの中で、高齢者虐待の早期発見に取り組み、行政・福祉・医療などの関係機関が相互に連携し、高齢者の人権の保護や介護者の支援を進めた。 高齢者の権利擁護に関する対応実績は延べ767件(3月末見込1,000件)となった。 高齢者虐待防止委員会を1回実施した。 地域包括支援センターとの連携により啓発リーフレットの配布を継続して行った。 関係機関研修会開催 3回279人 	

平成27年度の目標達成状況	<p>①安心ネットワークの充実(B評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KWN(西区自立支援協議会)の事業を支援し、障がい者が安心して地域で生活できるよう、福祉施設との連携を深めるための協議や研修、啓発事業などを実施するため、関係事業所と地域との結びつきを強める取り組みを進めた。 ・テーマごとの部会や分野ごとのネットワーク会議を活発に行った(事務局会議等21回、部会23回、ネットワーク等49回)。広報活動として、障がい児関連事業をまとめた「はっぴ〜ガイドブック」の改訂版を発行するとともに、3月末には障がい種別ごとの特性と配慮をまとめた「サポートマニュアル」を発行する。 ・引き続き人権擁護・虐待防止研修会、当事者から学ぶ会、地域生活シンポジウムを開催するとともに、地域団体等の参加も得ながら、ワールドカフェ形式の意見交換・交流会を5回開催した。今年度から当事者版ワールドカフェにも取り組んだ。 ・上記のような取り組みを行ったが、まちづくり指標の「KWN(西区自立支援協議会)事業・活動への理解度」について、西区の住民を対象にインターネットを活用したアンケートを実施した結果、目標値30%に対し、16.9%の結果となり、5か年計画の目標値を達成できなかった。今後は、サポートマニュアル等を活用した出前トークにも取り組みながら、地域における障がい理解の深化が必要である。 <p>②障がい者への地域支援(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある方の地域生活支援の一環として、相談支援事業者連絡会を月例で開催するとともに、特別支援学校並びに養護学校の進路相談会をはじめ、関係者と連携しながら日中活動など障がい福祉サービスの利用を推進し、障がい当事者の主体性を育んだ。 ・のじぎく特別支援学校高等部学生によるインターンシップを西区、西図書館、県立総合リハビリテーションセンター、西神ハローワークが積極的に受け入れた。KWNはたらく部会を通じて、授産事業の共同受注にも努めた。
平成27年度の評価・今後の課題	<p>中高年者の健康づくり活動について、住民が参加しやすいよう休日にウォーキングイベントやヘルシーウォーキングの登録会を行い、健康チェックコーナーや栄養相談等に多くの参加者があり、住民全体の健康づくりが進んだ。さらに中高年者の参加を促すために、大学と連携しながらの様々な取り組みを行っていく。</p> <p>高齢者の地域での支援や孤立防止のため、地域ネットワーク会議が開催されたほか、高齢者の交流を深めるための給食会やふれあい喫茶を実施しふれあいの場を多数設けた。また、高齢者虐待の防止については、権利擁護の対応の増加に応じ、連絡会や研修会の開催で関係機関の連携を強化した。</p> <p>障がい者が地域で安全安心に生活できるまちづくりをめざし、KWN(西区自立支援協議会)の活動は年々充実し、講演会やシンポジウムなど優れた取り組みが活発に行われた。今後とも各種団体と連携し、障がい者情報を地域に発信するとともに、様々な媒体を活用して、広報活動を強化していく。</p> <p>重点事業の評価数がA評価8、B評価が1であり、全体評価は「顕著な成果」としている。</p> <p>高齢者や障がい者の地域支援活動の強化のため、独居世帯、老々世帯、老障世帯をはじめとする複合的な課題を抱える家庭への支援、無縁社会の克服に向けた取り組みが必要である。</p> <p>現在、地域住民や各種団体、行政による様々な取り組みが行われているが、高齢者虐待防止や認知症対策など、地域と行政が一体となり、引き続き取り組みを進めていく。</p> <p>身体・知的・精神など、それぞれの障がい特性への理解、支援時の配慮についての知識の普及に向けた取り組みが求められており、サポートマニュアルの活用や地域での出前トークなど具体的な事業の企画運営が必要である。</p>

4 地域福祉活動の充実		A評価:	顕著な成果
趣旨	<p>区民がお互いに支えあい、地域で安心して生活が送れるように、地域福祉活動の充実が求められています。農村地域やニュータウンなど地域の状況に応じた福祉活動を支援します。</p> <p>地域のすべての団体・組織が「あいさつ運動」への取り組みを推進し、人と人のつながりを高め、安心して生活できるあたたかいまちづくりをめざします。</p>		
平成27年度の目標達成状況	<p>① 地域協働ネットワークの構築</p>	<p>①民生委員児童委員活動の支援(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 民生委員児童委員の活動に対する市民の理解をいっそう深めるため、その活動についての情報発信に努めるとともに、民生委員児童委員相互の情報交換や研修会などを通して活動内容の充実を図った。 その充実のため行政の支援を強化し、地区民児協福祉活動交流研修会や地区会長研修会、地区副会長研修会・主任児童委員研修会など各種研修会を定期的に開催し民生委員資質向上の支援を行った。また、H26年度に作成した西区民生委員児童委員事務の手引きとQ&A集を活用して活動の支援を行っている。 <p>②地域の各種団体との連携と協働(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域福祉活動のよりいっそうの充実のため、協働による取り組みを進めた。 ふれあいのまちづくり協議会において、ふれまち助成の新規メニュー、並びに地域IT教室の開催など西区独自メニューの活用を行った(北山、月が丘、井吹東、桜が丘)。 <p>③福祉関係者の資質向上 (A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉活動支援の継続実施のため、活動充実に向けて、ふれあいのまちづくり協議会委員を対象に研修会を行った(H27.6.24、H27.11.18、H28.2.23)。 	
平成27年度の目標達成状況	<p>② 地域見守りの推進</p>	<p>①高齢者などへの見守り活動(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 民生委員は関係機関(市・区社協・あんしんすこやかセンターなど)との連携を進めながら、見守り対象となる単身高齢者や老々世帯を訪問し、日常的に安否確認や必要に応じた相談対応等を行った。 高齢者見守り調査について、H26年度から過去の郵送調査で訪問調査不要と回答した方のうち、75歳以上の単身者についてすべて調査を行った。 地域の住民が中心となり、民生委員と連携しながら、友愛訪問活動を行った。 外出を支援する移送サービスや民生委員、地域ボランティアが連携したふれあい給食やふれあい喫茶などの地域見守り活動を行った。 <p>a. 高齢者見守り調査数1190人 b. 友愛訪問グループ 46(うち新規結成2) ボランティア 304人、見守り対象高齢者696人、ふれあい給食グループ28 c. ふれあい給食会 331回 28箇所 d. ふれあい喫茶サロン 219回 21箇所 (再掲)</p> <p>②災害時一人も見逃さない運動《再掲実践プラン1-①-③》(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 民生委員児童委員を中心に、防災福祉コミュニティやふれあいのまちづくり協議会だけでなく、自治会も連携した取り組みが広がり始めており、要援護者の情報を集約し、災害時にも活用できる情報システムづくりに取り組んだ。 また、各地域で要援護者マップや名簿の作成を進めるとともに、災害時だけでなく平常時も活用できるよう取り組みを行っている。 まちづくり指標である「災害時一人も見逃さない運動の取り組み地区数」は、目標値13地区に対し14地区となり、5か年計画の目標値を達成した。 	
	<p>③ 地域福祉強化活動</p>	<p>①地域福祉団体への支援強化(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域福祉ネットワークが、制度の狭間で苦悩する様々なケース(生活困窮者、ごみ屋敷、引きこもり、セルフネグレクト、単身認知症高齢者など)に対応しつつ、地域における新たな支え合いづくりを支援した。 「西区ご近所支え合いサミット」を開催し、西区におけるさまざまな地域活動の実践報告を行うとともに、地域における支え合い活動の推進を目的とした協議を行った(開催日:H27.12.24、参加者 220名)。 介護保険制度の改正を踏まえ、地域関係団体・NPO・ボランティア・介護保険事業者等の参画のもと、「西区協議体」の運営を開始した。※平成27年度は2回開催(H27.12.24、H28.3.4) 	

<p>平成27年度の目標達成状況</p>	<p>④ 中高年の地域貢献活動</p> <p>① ボランティアの育成支援(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おでかけ応援ボランティア入門講座、お話し相手ボランティア入門講座、実践ワンポイント講座を延べ5回開催し、新たな人材の発掘や活動の継続支援に取り組んだ。また、既存グループの活動継続のため、ボランティア交流会(84人)を開催し、交流の場づくりを行った。 ・地域福祉ネットワークについて、ニュータウン地域の福祉を支える新たな人材発掘や人材育成につなげるため、地域住民とともに検討を行い地域限定版ボランティア講座を開催した。(4回 106人) また、制度の狭間で苦悩する様々な個別ケース(ごみ屋敷、引きこもり、セルフネグレクト、認知症の母と障がいを持つ子の世帯、無国籍児童、単身認知症患者等)に対応した。 ・西区ボランティアセンター登録状況は、登録グループ 229 グループ登録人数3,557人 個人登録人数 =グループに属さない個人登録者 174人 となっている。 ・まちづくり指標である「地域ボランティア活動への理解度」について、西区の住民を対象にインターネットを活用したアンケートを実施した結果、目標値30%に対し、31.1%の結果となり、5か年計画の目標値を達成した。今後も、より積極的な啓発を行っていく。
<p>平成27年度の評価・今後の課題</p>	<p>地域の活力を高める地域福祉活動の充実のため、様々な活動に取り組んでいる西区民生委員児童委員協議会活動を積極的に支援するとともに、地域での福祉活動の支援のためのふれまち助成やふれあいのまちづくり協議会委員のための研修会開催など、地域の各種団体との連携強化に努めた。</p> <p>民生委員と関係機関との連携を進め、友愛訪問や外出支援など高齢者への見守り活動を行った。</p> <p>災害時一人も見逃さない運動では、民生委員児童委員や防災福祉コミュニティと連携し、地域での要援護者マップ作りや防災避難訓練の取り組みが進んだ。</p> <p>民生委員児童委員や地域団体が区社会福祉協議会に配置された地域ネットワーク等も活用しながら、地域の中で支えあい助け合うネットワークづくりに取り組んだ。</p> <p>ボランティア活動において、これからの核となる中高年者が参加するきっかけづくりとして、車イス体験、介護実技、傾聴活動体験などのボランティア入門講座を開催するなど取り組みを進めた。</p> <p>重点事業の評価数がA評価7であり、全体評価は「顕著な成果」としている。</p> <p>「災害時一人も見逃さない運動」については、関係機関・団体との協議を進め、神戸市の「災害時要援護者支援体制づくり」の方針に基づいて、取り組み地区の拡大に努める。また、高齢者や障がい者、乳幼児をもつ母親などの災害弱者の視点に配慮した避難所のあり方を検討していく。</p> <p>住民相互の地域での見守り支援や自立して生活をする高齢者に対する支援活動は大きな課題である。</p> <p>近年、ボランティア自身の高齢化や企業組合ボランティアグループの解散、活動範囲の縮小などにより、グループが減少(休眠)傾向にある。身近な生活圏域での住民の支えあいなど、ボランティア活動の重要性は一層高まっており、上記のように地域に特化したボランティア講座のほか、メールニュースを活用したPRなど、より積極的な広報を展開していく。</p>

5 交流が生み出す活力あるまちづくり		A評価:	顕著な成果
趣旨	<p>西区は、農村部の緑豊かな自然に加え、魅力的な歴史・文化的資源を数多く有しているほか、住宅団地や工業団地の開発により新たな市街地が形成され、また、大学や企業の進出も増加しています。これらの恵まれた自然環境を持つ農村部、整然としたニュータウンの特性を活かし、地域の内外・世代間が交流し、次代を担う人材を育てるまちづくりに取り組みます。</p>		
平成27年度の目標達成状況	① 都市と農村との交流	<p>①地域間交流(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・距離や歩数、消費カロリーなど、生活習慣病の予防や、健康づくりの促進に役立つ情報を掲載したウォーキングマップを活用し、「スタンプラリー」を開催した。開催にあたり、農村地域に数多くある寺社など、地域資源を「スタンプポイント」として掲載した「スタンプラリーマップ」10,000部を作成・配布し、地域の魅力と伝統的な文化財等を紹介した。 ・地域の子育て力をアップする取り組みとして核家族で孤立しがちな親子を対象に地域での自然体験を通じて、親同士や地元の人と交流する事業を実施し、約100人が参加した。 ・各地域で、地元食材を使った食育交流を実施し、小寺里づくり協議会と垂水区の小学校との交流などで、7箇所の交流地区で、13回農業体験や加工体験等が行われ、約2,300人が参加した。 ・各里づくり協議会では「ため池・田んぼ探検隊」、「農村伝統文化活動」、「農業体験ウォーキング」などを実施し、延べ約750人が参加した。 ・樫谷町の福谷地区里づくり協議会と西神中央自治連合協議会が主催となって開催された「れんげまつり」に、約1,500人の来場者があった。 <p>②「農」に関する情報発信(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区産農産物の消費拡大を目的に、「第6回こうべ地域のたべもの祭り」が開催され、約5,000人の来場者があった。 ・地産地消の推進と食育を目的に、市内の学校給食で地元産の野菜(こうべ旬菜・タマネギ・ジャガイモ・ニンジン)を使用する「こうべ給食畑事業」を実施した。 ・情報紙「西区みのり通信」を年2回発行し、「農」にかかわる地域の取り組み、イベント、旬の食材の情報を掲載し、季節ごとの身近な「農」の話題を紹介した。 ・第33回「西区みどり太陽のまつり」において、(一財)神戸みのりの公社、JA兵庫六甲などと連携し、「西区物産展コーナー」を設置し、地元野菜や神戸ワインの販売・PRを行った。 <p>③西区魅力発見ツアー(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区の産業や文化をPRするため、“農業”や“工業”、“伝統芸能”などをテーマに、西区の魅力を紹介する「西区魅力発見ツアー」を2日間実施した。 <p>まちづくり指標である「西区魅力発見ツアー参加者の満足度」について参加者にアンケートを実施した結果、今年度目標値85%に対し、99%の結果となり、5か年計画の目標値を達成した。</p>	
	② 地域文化資源の保存伝承	<p>①伝統文化等保存活動支援(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域文化資源の保存継承のため、伊川谷町長坂の獅子舞、平野町の宇留春日神社のお先太鼓・神幸祭用のお道具、伊川谷町の南別府櫓太鼓に修繕・新調費用を支援した。 <p>②広報活動の強化(B評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約14,000人の来場者があった「第33回西区みどり太陽のまつり」のステージにおいて、伝統芸能として、新々田獅子保存会の獅子舞、平野町西戸田自治会の祇園囃子が披露された。 ・押部谷町顕宗仁賢神社(木津里づくり協議会)で農村歌舞伎を上演し、約300人の来場者があった。 ・西区の歴史遺産に関するPRと学習のため、埋蔵文化財センター・西図書館との連携により「西区地域学」を開催し、32人が参加した。 ・区民広報紙「なでしこ通信」平成27年9月号で、「受け継がれる西区の伝統芸能と秋祭り」を特集し、住吉神社の獅子舞、岩岡神社のふとん太鼓、顕宗仁賢神社の農村歌舞伎を紹介した。 ・まちづくり指標である「区内で行われる神楽舞、鬼やらい等の伝統芸能の認知率」について、西区の住民を対象にインターネットを活用したアンケートを実施した結果、今年度目標値65%に対し、55%の結果となり、昨年度より認知度は上がったものの、5か年計画の目標値に達しなかった。 	

平成27年度の目標達成状況	<p>③ 大学などとの連携促進</p> <p>①大学などと区の連携強化(A評価) ②大学などと地域の交流強化(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校高学年の児童と乳幼児及びその保護者がふれあい体験を行う「命の感動体験事業」に神戸市看護大学の教員が、運営スタッフとして参加した。 ・区民の健康づくりを支援するため、流通科学大学の教員・学生が、各地域における「ヘルスアップ作戦」「ヘルシーウォーキング」で健康づくり講習会を開催し、地域と大学の連携・交流が図られた。 ・伊川クリーン作戦(神戸学院大学)、プレパパ&プレママセミナー(神戸市看護大学)、学園夏まつり(流通科学大学)、国際交流のタベ などしこの盆(神戸市外国語大学)など、地域で開催されている多くの行事に区内大学生が参加した。まちづくり指標である「区内大学生が参加する地域行事数」は、今年度目標値70件に対し、84件の結果となり、5か年計画の目標値を達成した。 <p>③連携事業の支援(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大学・西区連携まちづくり活動助成」で、大学が地域の魅力向上・課題解決を目的として取り組む活動に対して助成を実施した。 ・「こうべ地域のたべもの祭り」で神戸学院大学の2サークルと西神戸農業経営者協議会が、西区で生産される野菜を使ったリゾットなどを提供した。
④ 世代を超えた交流の促進	<p>①スポーツ関連行事を通じた交流(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生から大人までが参加する「ファミリーロードレース大会」を開催し、約1,100人が参加した。 ・地域の主催によるウォーキングイベントが、区内8地域(蘆谷、西神南、伊川谷、玉津、神出、押部谷、岩岡、平野)で開催され、子どもから大人まで延べ約3,200名(3月末見込約3,500名)の参加者があった。 <p>②文化芸術活動の発表を通じた交流(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生との交流を図る盆踊り「国際交流のタベ などしこの盆」が、西区連合婦人会の主催で開催され、約2,000人の来場者があった。(神戸市外国語大学の学生が運営スタッフ・通訳ボランティアとして参加。) ・青少年が中心となって「青少年によるアトラクション」を運営・発表する「西区青少年フェスティバル」を開催し、約500人が参加した。 ・区内中学校の吹奏楽部・コーラス部の発表の場として、神戸学院大学の協力・支援のもと「西区中学校合同音楽祭」が開催され、14団体550名人の参加があり、約1,000人が来場した。 ・約14,000人の来場者があった「第33回西区みどりと太陽のまつり」において、公募による29団体がステージ出演を行った。
平成27年度の評価・今後の課題	<p>継続実施されている都市と農村との交流活動も西区地域の行事として定着してきており、各地域における季節ごとの趣向をこらした多彩なイベントや行事に、多くの参加(利用)状況が見受けられることから、順調に進捗していると考えられる。</p> <p>「西区魅力発見ツアー」では、岩岡神社秋季大祭の見学、工場見学、農業体験などを行い、地域の方々や企業のご協力により西区独自の産業、自然、伝統芸能を体験したことにより、参加者の満足度は99%であった。</p> <p>また、各大学とも、学生の地域参加・社会連携の促進に力を入れており、大学生が参加する行事数は増加の傾向にある。重点事業の評価数がA評価9、B評価が1であり、全体評価は「顕著な成果」としている。</p> <p>「西区みどりと太陽のまつり」などにおける伝統芸能の披露や、区民広報紙における特集など、伝統文化の魅力の発信を行ったこともあり、区内の伝統行事の認知率はやや向上したが、目標値に達しなかった。今後も、地域で行われる行事を通して地域間・世代間の交流が図られるように広報や情報発信に取り組んでいく。</p>

6 自然と共生した美しいまちづくり		A評価:	顕著な成果
趣旨	暮らしのなかで、自然を身近に感じられることは、人々の心をより豊かにします。ゆとりある田園風景や河川敷といった恵まれた自然環境を守り、新しい市街地との調和を図りながら、美しいまちづくりをめざします。		
平成27年度の目標達成状況	① 河川愛護活動	①川とふれあう機会づくり(A評価) ・コミュニティの振興や、河川に親しむきっかけづくりを目的として、4地域(平野、伊川谷、押部谷、櫛谷)で「川まつり」を開催し、約7,700人の来場者があった。 ・「伊川クリーン作戦」として、地域住民のほか、神戸学院大学の学生参加により、美化活動を年3回実施し、延べ1,500人が参加した。 ・明石川の玉津流域における河川敷の利活用と玉津町明石川愛護協議会(仮称)の立ち上げについて検討した。 ②水辺保全活動の支援(A評価) ・明石川、櫛谷川、伊川流域の住民からなる河川愛護団体5団体に対して活動助成を実施した。	
	② 里づくり活動の推進	①里づくりの推進(B評価) ・押部谷町の里づくり事業の推進に向け、ブランド米「おしべのゆめ」の作付や、桜の植樹など、地域住民が主体となって、活性化に取り組んだ。 ・地域住民が主体となって集落の活性化方法についての情報交換や、行動していく仕組みを作るための「里づくり研修会」を開催し、6回延べ137名が参加した。 ・集落単位の営農計画を作成する国の制度である「人・農地プラン」を重点的に推進し、西区の5地区で新規策定、10地区で更新を行った。 まちづくり指標である「里づくり計画の策定地区数」は、今年度目標値53地区に対し、48地区の結果となり、5か年計画の目標値に達しなかった。 ② 地域特性の発掘(A評価) ・里づくり活動の中で、農業への関心を高め、農村地域の活性化を図るため、都市部と農村地域との交流を、神出上北古×兵庫区、伊川谷小寺×学園都市、押部谷木見×桜が丘、押部谷木津×北五葉、櫛谷松本×灘区鶴甲、櫛谷寺谷×西神南で実施した。	
	③ 花のあるまちづくり	① 花絵花壇・まちなかの飾花(A評価) ・地域の環境美化とコミュニティづくりに役立つことを目的として、公園・道路・広場・空地等を利用し、自主的に市民花壇を設置・育成・管理する67団体に花苗を提供し、助成を行った。 また、市民花壇を奨励し、花壇づくり及び育成管理の技術向上をはかり、同時に地域環境美化を推進し、市民参加活動を広く周知することを目的とする市民花壇コンクールに、41団体が参加した。 ・西区産の花壇苗を使用して、小学校15校で花絵花壇を作成した。 ・平野町明石川まつり及び神出町七夕まつりの会場において、区民との協働で季節を彩る草花の飾花を実施した。 ②区の花「なでしこ」の飾花活動の推進(A評価) ・地域福祉センター13箇所(新規1箇所)になでしこの苗を計900鉢配布し、飾花を実施した。	
	④ マナーアップの取り組み	① 不法投棄の防止(A評価) ・地域住民からなる不法投棄監視員62名が、通報の迅速・機動的な対応等を行うために設置した拠点「不法投棄防止協働西サテライト」と連携し、不法投棄パトロールを実施した。 ②ペット、喫煙マナーの啓発(A評価) ・地域住民が主体となり、犬の糞害が発生している地域で、飼い主のマナー向上を目的に、イエローカード作戦を5地区で実施した。 ③違法駐車・迷惑駐輪対策(A評価) ・西神中央駅前において不法駐輪対策の啓発キャンペーンを実施したほか、地下鉄駅周辺の放置禁止区域では、定期的にパトロールや取り締まりを実施した。 ・違法駐車等を防止することにより、市民の安全で快適な生活環境の保持及び向上を図ることを目的に、5つの重点地域に対して助成を実施した。	

<p>平成27年度の目標達成状況</p>	<p>①クリーン作戦(B評価) ・小学校と地域が協働で、公共スペースの清掃活動と児童・家庭の環境学習を行う「地域ふれあいクリーン作戦」を実施し、小学校16校が参加した。 また、マナー向上の啓発を目的とした美化ポスターの募集・掲示に小学校8校が参加した。 ・各地で住民主体のクリーン作戦が実施され、16,743人が参加した。また、「美しいまち西区作戦」として、地域でのクリーン作戦の促進を目指し、出張所・連絡所を通じてクリーン作戦用資材を延べ103団体に提供したほか、美緑花重点スポット美化活動で56団体に助成を実施した。 ⑤ごみのないまちづくり ・ごみの減量化・資源化に向けて、ごみ出しルールの徹底を図るため、地域ごとのニーズや分別状況に応じた啓発活動や説明会を実施し、高津橋たそがれコンサートや、竹の台ふれあいまつり等の地域イベントで啓発活動を実施した。 地域説明会 36回 2,930人 (3月末見込 43回 3,516人) クリーンステーションでの排出指導 841か所 (3月末見込 1,009か所) 開封調査・個別指導 72か所 45回 (3月末見込 86か所 54回) カセットボンベ・スプレー缶の拠点回収場所 32か所 小型家電リサイクルボックス設置個所 10か所 ・まちづくり指標である「クリーン作戦への参加経験率」について、西区の住民を対象に、インターネットを活用したアンケートを実施した結果、今年度目標値50%に対し、32.5%の結果となり、目標値に達しなかった。</p> <p>②資源集団回収の実施(A評価) ・資源集団回収の更なる実施徹底に向けて、ワケンタイムや広報紙KOBE(全市版、H26年6月号)による広報を行った。</p>
<p>平成27年度の評価・今後の課題</p>	<p>河川愛護活動や里づくり活動、飾花活動は、取り組みも順調に進み、地域で定着しているが、今年度は、「人・農地プラン」の策定を重点的に推進したこともあり、まちづくり指標である「里づくり計画の策定地区数」については、48地区で今年度目標値の53地区に届かなかった。計画の策定からすでに10年を経過する地域では、地域の実情に合わせて計画の見直しが必要な時期となっており、今後は未策定集落での計画策定の推進に加え、里づくり計画実現のための支援や、米づくり・サツマイモ掘りをはじめとする農業体験などの都市部と農村部の交流事業の支援を拡充していく。</p> <p>マナーアップの取り組みについては、イエローカード作戦が実施されるなど地域住民の意識は向上していると考えられるが、ゴミの不法投棄などのマナー違反が依然として見られるため、引き続き、区民と行政が協働して、マナーの改善に向けた取り組みを行う。</p> <p>重点事業の評価数がA評価9、B評価が2であり、全体評価は「顕著な成果」としている。</p> <p>ごみのないまちづくりについては、まちづくり指標である「クリーン作戦への参加経験率」は目標値には達していないが、区内各地で地域団体等が盛んにクリーン作戦を実施しており、またごみの捨て方やマナーに対する啓発活動や地域説明会が行われている。今後も、住民主体のクリーン作戦への支援を行うとともに、広報など情報発信に取り組むことで、参加者層の拡大を図っていく。</p>

実践プラン	指 標	策定値 (現状)	平成23年度 数値	平成24年度 数値	平成25年度 数値	平成26年度 数値	平成27年度 数値	目標値 (平成27年度)	
まちづくり指標の状況	1 安全で安心なまちづくり	感染症予防の普及啓発の実施箇所数	130箇所	205箇所	210箇所	200箇所	219箇所	213箇所	200箇所
		西区安全安心まちづくり協定の締結数	—	0件	18件	84件	298件	310件	100件
	2 次世代育成支援の推進	命の感動体験実施校数(年間)	10校	10校	10校	14校	16校	16校	20校
		乳幼児相談への理解度(参加したことがある、知っている率の合計)	30%	33%	30%	35%	30%	52.7%	50%
	3 中高年者・障がい者の支援の充実	生活習慣病予防相談者数(年間)	200人	605人	728人	876人	916人	1,278人	1,000人
		「KWN(西区自立支援協議会)※事業・活動」への理解度(参加したことがある、知っている率の合計)	13%	15.9%	11.3%	14.3%	11.5%	16.9%	30%
	4 地域福祉活動の充実	災害時一人も見逃さない運動の取り組み地区数	—	2地区	5地区	6地区	9地区	14地区	13地区
		地域住民ボランティア活動への理解度(参加したことがある、知っている率の合計)	24%	23%	25%	27%	21%	31.1%	30%
	5 交流が生まれる活力あるまちづくり	西区魅力発見ツアー参加者の満足度	—	99%	100%	100%	100%	99%	85%
		区内大学生が参加する地域行事数(年間)	46件	53件	60件	68件	83件	84件	70件
		区内で行われる神楽舞、鬼やらい等の伝統芸能の認知率(見たことがある、知っている率の合計)	45%	49.7%	52.7%	53.0%	54.8%	55.0%	65%
	6 自然と共生した美しいまちづくり	里づくり計画の策定地区数	43地区	46地区	47地区	47地区	48地区	48地区	53地区
クリーン作戦への参加経験率(参加したことがある率)		34%	35.7%	35.9%	38.0%	34.4%	32.5%	50%	

※平成27年5月に「障害者安心ネットワーク(KWN)」から「KWN(西区自立支援協議会)」に名称変更しました